

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム あかつきの里		
所在地	下関市汐入町36-6		
電話番号	0832-22-3202	事業所番号	3570100713
法人名	社会福祉法人		

訪問調査日	平成 19 年 11 月 19 日	評価確定日	平成 20 年 5 月 27 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人 非常勤 3 人 (常勤換算 8 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 25,350 円	敷金	/ 無	円
保証金	/ 無	円	償却の有無	/ 無
食費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
その他の費用	月額	5,900 円		
	内訳	光熱水費		

(4) 利用者の概要 (11月19日現在)

利用者数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
	要介護 1	1	要介護 4	1	
	要介護 2	3	要介護 5	0	
	要介護 3	3	要支援 2	0	
年齢	平均 84.1 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 昭和病院
	歯科 昭和病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

広いリビングには、本や雑誌、利用者の粘土細工作品、貼り絵、季節の飾り物があり、生活観や季節感のある空間となっており、落ち着いた雰囲気の中で、ゆったりとした時間が流れています。ホームは海に面しており、美しい夕日に利用者、職員共に声をかけ一緒に眺めて、その感動を伝え合っています。職員のチームワークがよく取れており、検討事項、特に改善点など素早く前向きに取り組まれています。

(特徴的な取組等)

勤務交代は1ヶ月の重複勤務があり、利用者へのダメージを防ぐ配慮がされています。産休、育休制度があり、職員の働く意欲や継続につながっています。法人独自のオンブズマン制度を取り入れており、相談や苦情に対する前向きな取り組みがされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果を会議にかけ、改善点に優先順位をつけて、協議して記録の様式やパンフレット、業務の内容を見直しています。

(今回の自己評価の取組状況)

地域密着型サービスについて、会議で説明し、全員が自己評価票に記入して検討しています。日々のサービスを振り返りながら、改善点や課題が明らかになり、ホームの質の向上に役立つことを実感しています。

(運営推進会議の取組状況)

メンバーは自治会長、地域包括支援センター職員、家族、利用者、施設職員で構成し、ホームのサービス状況や課題などを話し合っています。次回から民生委員2名を増員し、2ヶ月に1回の開催を予定しています。

(家族との連携状況)

毎月1回、ホーム便りと金銭管理の報告、暮らしぶりを手書きで送付しています。年3回は家族会として花見や夏祭り、敬老会に声をかけています。また面会時や電話で様子を伝えたり、意見や要望を聞き、介護計画に反映しています。

(地域との連携状況)

自治会に加入しており、夏祭りを地域と共同で開催しています。海岸清掃への参加や土曜朝市、散歩時に、地域の人と声を掛け合って交流に努めています。防災非難時に地域の協力が得られるように、運営推進会議を通じて働きかけをしています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	”地域との関わりを深め、自由で楽しく穏やかな生活を送れるよう支援する”ことを事業所独自の理念としている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念をホーム内に掲示し、日常会話や会議で確認しあい実践に繋げるよう意識的に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入しており、夏祭りを地域と共同で開催している。海岸清掃へ参加したり、自治会長宅へ手紙を届けたり、土曜野菜市や散歩の際には隣近所に声を掛け合うなど関係づくりに努めている。	・日常的な取り組みの工夫
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	地域密着型サービスについて説明し、各職員が自己評価に記入して全員で検討した。外部評価の改善点に優先順位をつけて、意見交換をし、記録の様式、パンフレット、業務の内容を見直した。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	メンバーは自治会長、地域包括支援センター、家族、利用者、施設職員であるが、メンバーが揃わず、過去4回しか開催していない。ホームの状況報告やサービス内容、改善課題等を協議している。次回から地域の委員を2名増員予定である。	・会議の意義、役割の理解を深め積極的な参加の働きかけ
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	推進会議以外の連携は十分ではない。	・積極的な関わりの工夫

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホーム便り、金銭管理の報告、暮らしぶりについて手書きの手紙を郵送している。面会時にも生活状況や健康状態を話し、遠方の家族には電話で連絡している。家族会を年3回、花見や夏祭り、敬老会を実施するが参加者は少ない。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	入所時や面会時、家族会を通じ意見の出しやすい雰囲気作りを常に心がけている。意見箱を設置し、相談、苦情の窓口、外部機関、処理手続きは明示しているが第三者委員の設置はない。	・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は3名の職員で対応し、外出や行事に合わせ柔軟に調整している。職員の緊急時の代替は職員間で補っている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は法人で決められており、そのような中でも職員交代の際には、1ヶ月間は新旧職員が重複して勤務するなど、利用者のダメージを最小限にするよう努力している。	・異動によるダメージについての理解と配慮
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として経験に応じた研修に参加させている。法人で実施する研修は、同じ内容で3回実施し、全員が参加できるように配慮している。新人の研修は指導者をつけ、3ヶ月～6ヶ月の間、働きながらトレーニングするプリセプター制を実行している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入しており、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問などの交流を行っており、年4～5回職員2名ずつ参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に利用者と家族に1~2回面接を行い、見学、体験をして馴染みの関係づくりをしている。入居後は家族の面会を頻繁にするよう働きかけている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>共同生活者であるという視点を常に持ち、外出や買い物、調理など一方的な関係にならないよう心がけている。日々の生活やホームの周囲の四季折々の変化に触れながら、喜怒哀楽を共にし学び支えあう関係作りを築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員は日々の生活の中で、利用者の言動に関心を持ち、気になる言葉や様子をケース記録に記入し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族から希望を聞き、月1回のカンファレンスでケアマネジャーを加えた職員全員で介護計画を作成している。それぞれの意見やアイデアは十分反映されている。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>基本的には3ヵ月毎、変化が生ずれば随時見直しをしている。変化があればケアマネジャーに相談し利用者、家族の意見も取り入れて全員で協議している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>希望の美容院、ふるさと訪問などの移送サービスをしている。医療連携体制を整えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に家族の希望を確認し、適切な医療が受けられるよう支援している。協力医の受診は結果を家族に伝え、希望の医療機関は家族同伴で受診している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	できるだけ早い段階から本人家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合い、全員で方針を共有している。現時点では重度化や終末期は対応可能な施設に移している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	全職員がプライバシー保護の徹底を確認し合い、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはしていない。記録等の個人情報も収納や保管に配慮している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合ではなく、一人ひとりのペースに合わせて、散歩や買い物、パズル、歌など希望に沿って支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホームで朝食、夕食とおやつを調理、昼食は配食を利用している。買い物や調理、食事、後片付けを利用者と楽しみながら一緒にしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は夏季は毎日、冬季は隔日の14:00~16:00としているが利用者の希望に沿って支援している。入浴拒否の場合はシャワーや清拭、希望があれば足浴も行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備や後片付け、園芸、散歩、パズルや読書など場面づくりや楽しみごとの支援を行っている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホームの周囲の散歩や買い物、ドライブなど一人ひとりの希望に沿い、短時間でも戸外に出る機会を作って支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束について全職員が正しく認識しており、常に介護を振り返り、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。年1回法人で拘束についての研修を実施している。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、利用者の状況を把握し見守りをする中で日中は施錠せず、自由な暮らしを支援している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと報告書や事故報告書は、対策も十分に検討し、利用者一人ひとりの状態に合わせた安全確保に努めている。緊急連絡網、事故防止マニュアルはあるが、訓練は十分ではない。	・想定訓練の実施
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急対応は年2回研修を受けており、マニュアルもあるが、訓練は十分ではない。	・定期的な想定訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルがあり、年2～3回避難訓練を実施している。運営推進会議で地域住民の協力を働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報はファイルし、全職員が目的や副作用、用法、容量を理解しており、服薬は手渡しして確認している。飲み忘れや誤薬を防ぐために投薬カレンダーに入れ管理している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後声かけをして口腔ケアを実施し、歯ブラシや義歯の清掃は力量に応じ支援している。併設の歯科で月1回検診を受けている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量は記録しており、一人ひとりの日頃の様子や生活習慣を観察し、摂取できるよう支援している。専門家によるバランスやカロリーのチェックはしていない。	・専門家によるバランスやカロリーチェック
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、法人内の研修に参加している。日常的に布団干し、シーツ交換、衣類の洗濯、台所用品の清掃管理に心がけ、手洗いやうがいを励行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関入り口には草花が植えられ、リビングには随所に花を活けている。本棚には沢山の本が並び、季節にふさわしい作品を飾り、金魚を飼い、随所に生活感や季節感が感じられる。天窓からの光は程よい明るさで、居心地よく安心して過ごせるよう工夫されている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	アルバムや本、ぬいぐるみや馴染みの家具が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームあかつきの里
所在地	〒750-0059 山口県下関市汐入町36-6
電話番号	0832-22-3202
開設年月日	平成12年4月1日

【サービスの特徴】

入居者・家族・職員が一体となることを目指してケアを行っています。
手作りのものに囲まれた温かい環境の中で、その人らしく…をモットーに、レベルの差がある9名ですが、さりげなくお互いを助け合い、生き生きした言動や笑顔を引き出す為の優しいケアを心掛けています。

【実施ユニットの概要】 (10月1日現在)

ユニットの名称	グループホームあかつきの里			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	0名	男性 0名	女性 9名	
	要介護1	1	要介護4	1
	要介護2	3	要介護5	0
	要介護3	4	要支援2	0
年齢構成	平均 82歳	最低 72歳	最高 92歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	入居者にとってその人らしい暮らしを支援し、安心と信頼に向けた関係作りが出来ているのか客観的に見つめなおし、サービス水準の向上に向け職員全体で取り組み評価を行った。
評価確定日	平成19年10月20日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		事業所の状況、地域や利用者のニーズの変化に合わせて、理念を作りあげていく必要がある。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		併設の施設の玄関や、当事業所の玄関へホーム便りを掲示しているが、地域向けの便りが発行できればと思う。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		坂道の多い立地条件ではあるが、地域の人が開いている朝市や、近所のお店を利用しながら地域との関係を深めていきたい。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		運営推進会議にて少しずつではあるが、認知症について話し理解できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を受け改善すべき所は改善している。又、質の確保向上に努めている。	いつも目のつく所に設置。その時々で、必要に応じて見るようにしている。
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では利用者、家族の意見を取り入れ質の向上につながるサービスが行えるように努めている。	
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議の設置。行政とも連携している。	運営推進会議以外にも行き来する機会がないものか模索している。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護については、実際に利用されている入居者がいるので、何かわからない事などその都度質問などとして学び、関係者の方とは蜜に連絡をとっている。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束を行わないとすべての職員が正しく認知しており、法律の改正も受け職員同士日々の業務の中でさらに話題とし、未然防止の取り組みをしている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、及び解約する際は、契約書・重要事項説明書・パンフレットを用いて、理解・納得していただけるまで時間をかけ誠意をもって何度も説明している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談のホーム受付窓口は明示されており苦情処理の手順も明文化されている。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時、入居者の生活状況やホ - ムでの変化は、口頭又は広報誌にて常に伝えており、遠方の方には時折電話連絡等、日常生活をお知らせしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		職員の質の向上を図りホ - ム内での勉強会も行っている。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		職員の向上心を活かす為、資格取得に向けた支援を行っている。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		利用者は認知症であり、自己表現が困難な為、より多くの家族情報を提供していただくと共に生活習慣を知る為、訪問も増加していく。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		職員と入居者とは、共同生活者という視点を持ち、お互いが持ちつ持たれづの馴染みの関係であることを大切にし尊敬の心を持ち喜怒哀楽を共に分かち合い又、学びさりげなく支えあう関係を気づいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	一緒に過ごす上で、その日の体調などを見ながら皆でレクリエーションをしたり個別に話を聞いたりしている。		家族が職員に介護をゆだねつきりにならないよう、共に支援してもらうよう連絡は密にしている。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族より入居前の事を聞いたりして両者の関係を踏まえつつ、疎遠であることを理由にあえない場合には電話等を利用する事で、より良い関係が築いていけるよう心遣いしている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人との交流を支援する為、生活暦を把握し可能な限り、本人が過ごされた地域で買い物をする事で再会したり、手紙の届く方には必ず返事を出してもらうよう、途切れないよう努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、仲良く過ごして頂く為、席の配置にも気を配り、又グループで助け合い支えあえるように雰囲気作りをしている。性格的にも孤立しがちな方には職員が介入することで楽しく過ごせるよう支えている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了する時からの関係が最も大切であり、その後も相談・支援には心配りをし、入居時培ってきた信頼関係をより大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向の把握に努めると共に、本人本位の暮らしであるよう関係者職員全員が関心を持ち取り組んでいる。		入浴時1人で入りたい人や一緒に入りたくない人の意見を聞きながら自由に楽しく入浴してもらっている。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を使って入居前の暮らしを家族に書いてもらっており参考資料として活用し、職員の気づきも付け加え自分らしく暮らしていくことを支援している。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日個別に日誌を書き一日の過ごし方を総合的に把握できるようにし、本人のできる力、分かる力を暮らしの中で見つけて全職員が把握している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月1回職員会議を行い、意見交換を活発に行っている。家族の来所時には、本人の様子を伝え本人本位の介護計画になるよう話し合い協力も得る。	
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に三ヶ月に一度見直ししているが、変化が生じた場合は会議を開き全職員と内容を話し合い、入居者家族の意見も取り入れて見直ししている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意、日々の暮らしの様子や本人の言葉を記録している。すべての職員が確認できるようにしている。個別記録を見直し、介護計画を見直ししている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を整えている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	中学生・高校生の体験学習や保育園児との交流も行っている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	学生ボランティア、ヘルパー研修等の積極的な受け入れを行い、グループホームについて理解が深まるよう努めている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用者が幸せに暮らせるよう、その人らしい生活ができるよう、常に考え必要に応じて事業所以外のサービスを受けられるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人・家族・民生委員・地域包括支援センター・職員を含み二ヶ月に一度運営推進会議を行っている。		
49 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族からの依頼もあり、かかりつけ医をグループ内の医療機関とし、日頃から交流している受診結果も必ずご家族に報告している。家族希望があれば他受診も家族同伴で行っている。		
50 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	グループ内医療機関の認知症専門医に、支援していただいている。		
51 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携をとっている為、馴染みの看護師が来られ、常にその時々相談をし又、日常の健康管理に努めている。		
52 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	主治医、及び病院関係者との情報交換や相談を行い、家族との連絡も密にしホームの復帰を検討している。		
53 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	できるだけ早い段階から本人や家族、主治医・看護師・職員全体で話し合いを繰り返し、全員で方針を共有している。		
54 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合における、安心と安全を確保する為、かかりつけ医を含め職員全体で話し合いながら支援していく。		
55 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを防ぐ為、移り住む先の関係者に対して、本人の状況・習慣・好み等、情報を詳しく伝え家族と連携し安心して移れるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの保護を全職員が徹底確認しあい、記録等の個人情報他者の目のつかない所に保管している。	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	言葉では十分に意思表示が出来ない場合でも表情や全身での反応を注意深くキャッチし、本人本位の生活を支援している。	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	家事・居室の清掃、洗濯衣類の整理等を見守りにて自主的にできる様、さりげなく支援している。	衣類の入れ場所や目印を工夫する。
59	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	職員の一方的な都合ではなく、一人ひとりの望みを知り、本人本位の生活援助が出来るように支援する。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	希望にあわせ、入居者の行きつけの美容院へ行ったり、ホームに来られるビューティーヘルパーに頼んだり、その人らしい支援をしている。	
61	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	食事が食欲や栄養を満たすだけでなく一人ひとりの出来る部分を活かしながら、買い物や食事作りなどに喜びや楽しみを持ってもらうように支援している。	
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	一人ひとりの好みや意向を大切にしながら、自宅に居る時と同様に嗜好品を楽しめるように、一緒に手作りのおやつなどを作り支援している。	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	一人ひとりの排泄パターンを把握しさりげなく、声掛け誘導している。失敗しても傷つけない様、又、周りに気づかれない様になっている。プライドを傷つけない様、心掛けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		戸外には出たいが、歩きたくない。が、入居者の気持ちの為、歩く事に拒否もあるが、気分転換して頂く為、短時間でも外に出るよう努めている。
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		運営推進会議の際に地域の人々を交え災害対策について話し合い、又災害時に協力がえられる様にさらに声掛けして行きたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		入居者の体調の異変が見られたときは、家族に連絡、報告を行っている。
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先には季節にそった花を植え清潔感に気を配り、玄関が明るく見えるように絵や写真を置き下駄箱には入居者の手作りのパッチワークの布で飾り、履物も自分の物が分かるよう工夫している。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	天窓から入る光が強い場合、天窓用のカーテンをしたりして配慮している。生活観や季節感が分かるように入居者と一緒に作った壁飾りや花を置き、一緒にできる範囲で衣替えしたり、カレンダーを置いたりし安心して過ごせるようにしている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中にはそれぞれの居場所があり、思い思いにゆっくり過ごせる居場所を支援している。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使っていた家具や好きなぬいぐるみを置いたりして居心地よく過ごせるように工夫している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気が良い日や掃除の時は必ず外の空気が入るように換気している。湿度調節は入居者に聞きながらこまめに行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	廊下に手すりを設置しており、滑りにくい床材を使用するなど入居者の移動に配慮している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗をまねかない為にトイレや居室の位置が人目で分かるように貼紙をしたり、日付が分かりやすいように、手作りカレンダーを見える場所に置き工夫している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前には日向ぼっこ用のベンチを置き、一緒に花を植えたり、少し離れた場所では畑で野菜作りをし、収穫を喜びあっている。	玄関前には段差があり杖歩行又、歩行不安定の方の為に、安全な構造が望ましい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない